

樽一物語 樽一のはじまり ~その3 店の名

店のコンセプトは決まったが、次は店の名前である。店の名前は看板であり店のイメージも名前が決まる。

佐藤孝はあれこれ考えたが、まず、酒を売る店というコンセプトから「樽」が思い浮かんだ。日本酒を醸造する「樽」、祝い事の際の鏡開きに使われる「樽」酒など、日本酒には「樽」のイメージが強い。そして、「一」の字は、日本一ともいわれていた浦霞にちなんで名付けた。そして、「一」は、すべての物事の源であり、一品の献立、一杯の酒、一番大切なお客様一人ひとりとの出会いなど、「一」には様々な意味が込められる。

また、階段は一段ずつと自分自身を戒めながら、最高のものを求めて一步一步、「一」を積み重ねていくことに全力をかけて行きたい。このような思いを込めて、「樽一」という名にすることにした。銘酒浦霞を売る店でありながら「樽一」という名前には若干躊躇もあったが、蔵元は快く承知してくれた。

日本一の酒を出す日本一の店をめざして、一つ一つの肴と一杯の酒に心をこめ、お客様一人ひとりの出会いを大切に、一步一步着実に、そんな経営コンセプトが「樽一」という名前に込められている。

これは今でももちろん変わらない。